

## コミュニケーション支援に係る新たな取組について

## 1 第1回専門部会等でいただいた御意見について

- 第1回専門部会及びその後の照会により、視覚障害者等の災害時の避難所や日常生活において、コミュニケーション支援アプリが活用できない困りごと及び具体的な取組内容について御意見とその対応策をうかがった。  
⇒避難所等における具体的な対応（視覚障害に限らず、障害の特性に応じた支援や設備等の準備）を必要とする御意見・対応策が多かった。

## 【委員からいただいた主なご意見と対応策】

意見	対応策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時には、停電により電源確保や通信状況が悪化する可能性があり、スマートフォン等の利用を前提とした「コミュニケーション支援アプリ」は使用できない可能性がある。</li> <li>・アプリの認知度が低く、使ったことが無い人が多い。普段からアプリを使い慣れていない場合、災害時等にアプリを使いこなせないことが想定される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所等には、いつでも誰でも使うことができるアナログな方法でのコミュニケーション手段を用意しておく。</li> <li>・平時から、単なるチラシ配布に留まらずにアプリの周知を行い認知度を高める必要がある。</li> </ul>
視覚障害者は、移動と文字の読み書きが難しいことから、災害時には避難所内の動線確認や掲示物、配布物の確認ができず、移動や情報収集が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所において、障害の状態や必要な支援を知らせることができるカードやベストなどを準備して、スタッフや周囲からの支援をしやすいとする。</li> <li>・避難所スタッフ等からの困りごとが無いかの定期的な声かけや掲示物・配布物の代読などにより、移動や情報収集の支援を行う。</li> <li>・避難所において、歩行誘導マットやスマートフォンで読み取る案内支援タグなど、情報収集や移動支援に有効な設備を準備する。</li> <li>・災害時には、避難所の掲示物・配布物などの情報を LINE などのスマートフォンアプリを活用して一斉に連絡する。</li> </ul>
聴覚障害者（聞こえない・聞こえづらい方）は、避難所においてスタッフによる呼びかけや放送等による情報を取得できない恐れがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所では配布物・掲示物による視覚情報の充実、徹底や、アイドラゴンのような設備の設置が必要である。</li> <li>・避難所の運営は地域の方が担うケースが多いので、設備導入と合わせてそういった方へ障害の特性に応じた支援が必要。</li> </ul>
盲ろう者は、普段から単独で外出することが困難であり、災害時には特に、特性に応じた移動介助やコミュニケーション支援を行わないと移動や情報収集ができずに孤立してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室や防災訓練、様々な行事で広く盲ろう者の特性とコミュニケーション支援について周知する。災害時や避難所等においても適切な支援が行えるよう準備をする。</li> <li>・点字と活字が併記された点字コミュニケーションボードが有効な場合もあるので、避難所等には準備しておく。</li> </ul>
自閉症児・者等がコミュニケーションをとる場合、パニックを起こしていたり、周囲の状況によっては集中できずにアプリを利用できない場合がある。	避難所などでは静かで刺激のない、集中しやすい空間を準備しておく必要がある。

## 2 具体的な取組内容の案について

- 災害時の避難所等における直接的な対応を市町村が担っていることから、2024年度中に、市町村の福祉部局及び防災部局の職員を対象として、避難所における障害のある方への配慮やコミュニケーション支援をテーマとした「市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナー」を開催することとしたい。

## ○市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナー（案）

- ・障害者支援施設・団体等による講演、県による行政説明
- ・先進的な取組を行う市町村や団体等による事例紹介
- ・市町村職員同士のグループワーク

## 3 今後の予定

- 今回の議論を踏まえて、第3回専門部会（12月開催予定）にて2024年度の取組予定について報告